

本校の平和祈念式が、この日で852回目となりました。始まってから71年間、一度も欠かさず毎月の祈念式を続けてきたこととなります。

この日は、奥村アヤ子さんをお招きしての「被爆体験講話」でした。体育館には6年生だけが集まり、1年生から5年生まではリモートによる視聴でした。

被爆当時8歳（3年生）だった奥村さんのお話を聞き、平和であることのありがたさを改めて実感した貴重な時間となりました。お話の概要は、以下のとおりです。

- 防空頭巾をかぶって、集団登校をしていた。
- 今、体育館があるこの辺りは、「林間山」と呼ばれて、子どもたちの遊び場だった。
- 修学旅行のときは、2トン車（トラック？）に乗り、青空天井で雲仙に行っていた。
- 雨の日には、「ハスの葉」を傘の代わりにしていた。
- 自然あふれる城山町に家族9人で住んでいた。
- 電灯は黒い布で覆うようにして、薄暗い中での生活だった。
- 原爆投下の朝まで、家族団らんの時間を過ごしていた。
- 原爆投下により、家族がみんな亡くなった。弟と二人生き残り、誰にも甘えることができず、弟を連れて病院通いをした。しかし、2か月ほど後に弟も死んだ。4歳だった。
- 自分一人になり、毎日泣いて過ごしていた。
- 1発の原子爆弾で、何もかもがなくなり、いくつもの街が壊れてしまった。
- 中学校まで働きついで、預けられていた家を出ることばかり考えていた。
- 被爆後、46年ほどは原爆についての話ができなかった。

平和な世の中にしていくためには「人のいたみがわかる心をもつこと」が大切である。
二度と核兵器が使われないことを強く願っている。



途中何度か涙声になりながらも、子どもたちに戦争の悲惨さと平和の大切さを話していただきました。

77年経っても、当時のことは鮮明な記憶として刻まれているのだと思います。私たちはこれからも、平和教育をしっかりと継続し、「いたわり はげます 城山小学校」をつくっていかないといけません。